

特定事業者排出量削減報告書

住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地)	京都市南区久世殿城町338								
氏名(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)	日本電産株式会社 代表取締役社長 永守 重信								
特定事業者の主たる業種	精密小型モータ、中型モータ、機械装置、電子・光学部品などの開発・製造・販売								
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第1号該当事業者(大規模エネルギー使用事業者(原油に換算して1,500キロリットル以上)) <input type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第2号又は第3号該当事業者(大規模運送事業者(トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上)) <input type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第4号該当事業者(その他の温室効果ガスの大規模排出事業者(二酸化炭素に換算して3,000トン以上))								
計画期間	平成20年4月 ~ 平成23年3月								
基本方針	フロア合計消費電力・A4用紙使用量:2008年度原単位実績値を基準とし3ヵ年で平均3.0%削減。 環境活動推進単位別(部署別)環境改善活動テーマ:1件以上/年の推進。								
推進体制	管理部門 副社長をリガーとし、全体及び推進70%毎の環境目標策定と実践を行う。								
	環境マネジメントシステム名称	ISO14001							
	適用範囲	本社・中央技術開発研究所							
具体的な取組及び措置の状況	取得年月日	2004年6月							
	年度	設備,対象,工程等	措置内容						
	平成20年度	クリーンルーム	クリーンルームの集約により1フロア(約480㎡)の稼働を停止し、エネルギー使用量を削減しました。						
	平成20年度	照明・空調	不要箇所の照明器具の閉鎖、空調温度管理と照明器具・空調の消忘れチェックを徹底し、無駄なエネルギー使用を削減しました。						
平成20年度	社有車	社有車に一部ハイブリット車を導入し、ガソリン使用量を削減しました。							
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度(実績) (10)年度 (二酸化炭素換算)	目標年度(計画) (22)年度 (二酸化炭素換算)	増減率 (計画)	報告年度(実績) (20)年度 (二酸化炭素換算)	増減率 (実績)			
	A 事業所等排出区分	3,874.2 t	3,840.7 t	-0.9 %	3,822.6 t	-1.3 %			
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%			
	C その他排出区分	t	t	%	t	%			
	排出合計	3,874.2 t	3,840.7 t	-0.9 %	3,822.6 t	-1.3 %			
実績に対する自己評価	電算室のサーバー増設に伴い、サーバー及び電算室空調の電力使用量が増えたため、電力総使用量が微増となっていますが、その他の削減により、目標年度の計画排出量以上、CO2を削減しました。								
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度(実績)	目標年度(計画)	増減率(計画)	報告年度(実績)	増減率(実績)		
	本社・中央技術開発研究所	二酸化炭素換算 (従業員数)	6.20 t-co2/人	6.10 t-co2/人	-3.0 %	6.14 t-co2/人	-2.4 %		
		二酸化炭素換算 ( )			%		%		
		二酸化炭素換算 ( )			%		%		
実績に対する自己評価	目標年度の計画原単位達成にむけ、順調に削減しました。								
地球温暖化対策貢献量	対策等の区分	目標年度(計画)			報告年度(実績)				
		取組等	二酸化炭素換算		取組等	二酸化炭素換算			
	森林の保全及び整備	(整備面積)	ha	(吸収量)	t	(整備面積)	ha	(吸収量)	t
	市内産の木材の利用	(利用量)	m <sup>3</sup>	(削減量)	t	(利用量)	m <sup>3</sup>	(削減量)	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	(売電量)	kwh	(削減量)	t	(売電量)	kwh	(削減量)	t
		(熱供給量)	GJ	(削減量)	t	(熱供給量)	GJ	(削減量)	t
	グリーン電力の購入	(購入量)	kwh	(削減量)	t	(購入量)	kwh	(削減量)	t
	家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入	(購入量)	t	(削減量)	t	(購入量)	t	(削減量)	t
	削減量等合計			t				t	
	地球温暖化対策に資する社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>京都市主催のライトダウンキャンペーンへの参加。</li> <li>小学生向け環境出前授業の実施。</li> <li>ペーパーレス化活動の推進。</li> <li>WEB会議の使用推進(出張の抑制)や事業所間メール便を出張者ハンドキャリアにすることによる車輛からのCO2排出削減。</li> </ul>							
特記事項	原単位分母の従業員数は、基準年:616人、計画年:630人、報告年:622.75人です。								

注1 該当する□には、レ印を記入してください。  
 注2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のそれぞれの年度をいいます。  
 注3 「事業所等排出区分」とは本市の区域内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を本市の区域内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の本市の区域内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。  
 注4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、○工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標(製造品出荷額、延床面積、走行距離等)を記入してください。  
 注5 「地球温暖化対策貢献量」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度(計画)」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度(実績)」欄には実績の累計を記入してください。  
 注6 「地球温暖化対策に資する社会貢献活動」には、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献や地域における環境教育の実践活動など、地球温暖化対策や環境負荷の低減につながる活動を記入してください。  
 注7 「特記事項」には、1990年を基準とした排出量の対比や、温室効果ガス排出量の算定に当たって独自の係数を使用した場合など、説明を要する事項について記入してください。

